

レジメン名	診療科
R2療法	血液内科

適応疾患 再発又は難治性の濾胞性リンパ腫及び辺縁帯リンパ腫

1クール	28日間
総クール	12クール
休薬期間	7日間

薬剤名	投与量(mg/m ²)	投与日 (d1~d5、d1、d8等で記入)
リツキシマブ	375mg/m ²	d1, d8, d15, d22(1クール目)
リツキシマブ	375mg/m ²	d1(2-5クール目)

内服併用薬	投与量(mg/m ²)	用法	投与日(d1~d5, d1, d8等)
レブラミド	20mg	分1寝る前	d1-21
アセトアミノフェン	400mg/body	d1. 8. 15. 22(1クール目)リツキシマブ投与30分前 d1(2-5クール目)リツキシマブ投与30分前	
ポララミン	2mg/body	d1. 8. 15. 22(1クール目)リツキシマブ投与30分前 d1(2-5クール目)リツキシマブ投与30分前	

処方 (輸液・プレメジ・ポストメジを含む)

番号	薬剤名・用量(mg/m ²)	投与方法	投与時間	投与日(d1~5等)
①	リツキシマブ375mg/m ² +NS(リツキシマブBS10倍希釈)mL	DIV	別紙参照	d1, d8, d15, d22(1クール目)
②	Ns 50mL(フラッシュ用)	DIV	-	d1(2-5クール目)

備考 (減量・中止の基準を記載してください)

【レブラミド】

・血小板50,000/ μ L未満に減少した場合本剤を休薬する。その後50,000/ μ L以上に回復した場合には、本剤15mgを1日1回投与で再開。休薬2回目以降再度50,000/ μ L未満に減少した場合本剤を休薬する。その後50,000/ μ L以上に回復した場合には、本剤を前回投与量から5mg減量して1日1回で再開する。

・好中球が1,000/ μ L未満が7日以上持続又は発熱性好中球減少症(1,000/ μ L未満に減少及び体温38.5℃以上の場合)又は500/ μ L未満に減少した際本剤を休薬する。その後1,000/ μ L以上に回復した場合には、本剤15mgを1日1回投与で再開。休薬2回目以降、再度以下の事象が発現1,000/ μ L未満が7日以上持続又は発熱性好中球減少症(1,000/ μ L未満に減少及び体温38.5℃以上の場合)又は500/ μ L未満に減少した際本剤を休薬する。その後1,000/ μ L以上に回復した場合には、本剤を前回投与量から5mg減量して1日1回で再開する。

・腎機能障害中等症 $30 \leq$ クレアチニンクリアランス < 60 mL/minの際レブラミド10mgを1日1回投与で開始し、2サイクル終了後忍容可能な場合は15mgに増量できる。腎機能障害重症クレアチニンクリアランス < 30 mL/minの際はレブラミド5mgを1日1回投与。